

平成27年6月20日

平成26年度（26年4月～27年3月） 事業報告書

一般財団法人アジア・南洋協会
理事長 中野 有

平成26年度は従来の事業計画を引き継ぐ形で4つの事業を継続した。
以下、計画された事業の報告を行う。

1 コミュニティ放送（FM ラジオ及びインターネット放送）を通じたグローバル・メディア発信事業。

京都のNPO法人「三条ラジオカフェ」で毎週火曜 30 分番組として「シンクタンクジャーナル」を製作・放送した。報道ジャーナル番組として日本や世界の時の話題をタイムリーにゲストとのトークで発信した。

ほとんどがライブで、ゲストも直接リスナーに話しかける形で実施した。この事業は時々思いもかけない反応もありこの法人の中心的な事業である。

返信されるリスナーの感想や意見も取り入れ、それを参考に次の計画もしている。出演者もジャーナリストばかりに偏らず、法人の理事・評議員及び京都・近畿地域の文化・歴史や教育の現職者など多岐にわたっている。

毎年回を重ね、京都の国際的な観光都市にふさわしい事業であると思う。

2 アジア・南洋協会に関する調査研究事業

100 年の歴史を迎えた本法人の設立から今日までを 100 周年記念誌発行を目指して毎年調査研究を続けている。

国立図書館での調査研究で明らかになったこともあり、これらは今のアジア情勢の未来に向けたアジア諸国の交流のあり方を示すものに結実しつつある。

特に近年の中国・韓国と日本そして東南アジア諸国の動向と未来をこの法人で研究テーマにして拡張し深めたものに結実させたい。

3 世界の動きをコラムで発信する

世界の動きはまさに流動的であり、21 世紀になりさらに激動ともいえる様相を呈している。いたずらに圧倒される情報に流されることなく、冷静で歴史を見通した批評が大切である。多角的・重層的な視点を持ちながら「世界の中の日本」を志向し、コラムとしてホームページに掲載した。

現在進行形の世界の様子を月 1 回のコラムでまとめるのは困難ではあるが、書き続けることで生じる新たな歴史・文化・地政学的見解をアジア・南洋協会の財産にしていき、ひいては戦略的思考まで深めてきている。

来年度も引きつづき継続事業としていく。

4 ホームページ編集・発信・管理

ホームページ上に定款・役員、評議員会名簿・事業計画書・事業報告書・収支計算書等財務諸表を公開する様にホームページ管理者を置いている。

次年度からも情報公開性の観点から、必要に応じて財団の活動・事業公開を進めて行きたい。

以上